平成21年度　大津市立皇子山中学校　学校評価書

皇子山中学校学校教育目標
- **・たくましく生きる生徒<確かな学力・体力の充実した生徒＞**
- **・情操豊かな生徒<心豊かで、思いやりのある生徒＞**
- **・社会性のある生徒＜みんなに信頼される生徒＞**

教育推進の基本
- **・確かな学力と規律ある集団づくり**
- **・当たり前のことが当たり前にできる学校**
- **・ビギン　オン　チャイム（チャイムと同時に授業開始）**

NO1

大項目		中項目		小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
						小項目評価	中項目評価	現況	中項目評価	意見、提言等	
(1)	基礎基本の徹底と個性を伸ばす創意ある教育の推進	1	確かな学力	1	わかる授業の構築と生徒の特性を伸ばす指導の工夫（授業研究・授業公開・授業参観）	B	B	・学力学習状況調査の結果に基づき学力向上策の策定に取り組んだ。 ・基礎基本の確実な習得や定着を図るため、朝学習の工夫、放課後の補充教室を実施した。 ・家庭学習を定着していくための工夫改善が必要である。 ・少人数指導としての評価は見られるがより一層の工夫改善に取り組む必要がある。	B	・朝学習の取り組みについては、生徒のアンケート結果や学校の自己評価の結果からよく取り組めている。 ・生徒、保護者とも少人数指導には高い評価をしているので継続して欲しい。	・基礎基本の確実な習得や定着を図るため、朝学習の工夫や授業外の補習など積極的に取り組んでいく。 ・計画的に家庭学習が出来るように習慣化に努め、点検活動にも粘り強く取り組んでいく。 ・少人数指導においては、生徒一人ひとりの違いを理解し、個に応じた指導方法の工夫、改善に努めていく。
				2	基礎基本の確実な定着のための反復学習や朝学習の推進	A					
				3	予習復習及び家庭学習の課題の提示と事後点検・指導による学習習慣の形成	B					
				4	少人数指導等の継続と工夫、学年教職員の協力による指導の推進	B					
		2	**道徳教育**	5	規範意識や礼儀など正しい道徳的判断力や心豊かな生徒を育成するための道徳の時間の充実	B	B	・平成21年22年と文部科学省「道徳教育実践研究事業」の指定を受け、道徳の授業研究を継続し、授業力の向上に努めた。 ・各学年ともに道徳の時間の確保や効果的な指導の工夫改善に努めた。 ・参観日や学校公開などにおいて積極的な道徳の授業公開に努めた。 ・道徳と総合的な学習や体験活動との有機的な関連を図っていく必要がある。	B	・道徳教育は人間形成に繋がる所があり難しい授業である。 ・道徳教育の評価は、目に見ない部分があり難しい。 ・道徳の授業時間が確保されていることは大切である。 ・学校として道徳に取り組んでいることが学校通信や学級通信でよくわかる。また、生徒の言動にも少しずつ変化が見られる。	・道徳の時間を確保する中で、副読本など効果的な指導を工夫し、心に響く道徳教育の指導に努めていく。 ・計画に沿って道徳の授業を推進し、教材研究や資料の整備に努めていく。 ・参観日や学校公開日など積極的な授業公開に取り組んでいく。
				6	生命等を尊重する心や公共心、公徳心などの道徳的実践力を育てる活動の実施	B					
				7	道徳の授業研究や資料の整備・交流	B					
				8	保護者への道徳の授業公開	B					
		3	**体験活動**	9	各種体験活動の積極的な実施	A	B	・各種体験活動（校外学習、修学旅行、葛川自然教室、福祉体験、職場体験など）を通し、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、行動できる生徒の育成に努めた。 ・事後学習においては、新聞、レポート等にまとめ、教室や廊下に掲示をおこなったり通信等で紹介するように努めた。 ・学習発表会や保護者の参加、啓発に工夫改善が必要である。	B	・二年生で実施している職場体験では生徒が頑張っている姿がみられた。	・本年度と同様に事後学習では、新聞、レポート等にまとめ教室や廊下に掲示し、学習の成果を広く紹介するよう努めていく。 ・学習発表会や保護者の参加について工夫改善に努めていく。
				10	活動後の発表会等学習のまとめ	B					
				11	発表会等への保護者等の参加	C					
		4	**人権教育**	12	人権意識や思いやりの心の育成といじめ問題への対応	B	B	・各学年とも学習教材や主体的な学びを大切にした学習方法を整備し、人権意識を高める指導に努めた。 ・3年間を見通した計画的な人権教育の推進と継続的な取り組みが必要である。	B	・思いやりの心を育てることは難しく、いじめ問題につながるケースも多々ある。人権教育を通して人権意識を育てて欲しい。 ・いじめ問題は次から次へとケースを変えて出てくる。インターネットなど情報社会の影響も大きく出ている。	・人権意識を高める指導に努め、3年間を見通した計画的な人権教育の推進に取り組んでいく。
		5	**特別支援教育**	13	個別指導計画の作成	B	B	・特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育の校内体制の確立、充実に努めた。 ・巡回訪問やケース会議、職員研修を実施し指導力の向上に努めた。 ・定例の特別支援部会を開催し、情報交換や個別の指導計画を作成するとともに組織的、計画的な支援体制の充実に努めた。 ・特別支援教育部会での研修会等を実施したが職員全員が参加できるように時間の検討が必要である。	B	・特別支援を要する生徒に引き続き、きめ細かな指導を続けて欲しい。 ・特別支援教育支援員の増員をお願いしたい。	・個別の指導計画による一貫した支援がおこなえるように努めていく。 ・関係機関と連携し、組織的、計画的な校内の特別支援教育指導体制の充実に努めていく。 ・巡回訪問を活用し、教職員の指導力向上や個別の支援計画策定ならびに指導計画の作成に努めていく。
				14	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A					
				15	巡回訪問等を活用した校内研修	B					
		6	生徒指導	16	校内の生徒指導、教育相談体制の確立と組織的な推進	A	B	・校内における生徒指導、教育相談の指導体制の確立に努めた。 ・定例の生徒指導部会、教育相談部会の充実に努めた。 ・各家庭との信頼関係の構築に努めるとともにさらにきめ細かい生活習慣の確立に向け連携を強化していく必要がある。 ・常に危機意識を持ち、足で稼ぐ生徒指導を推進していく必要がある。 ・『皇中環境宣言』や『服装規定』など生徒会を中心とした継続的、主体的な取り組みを推進していく必要がある。	A	・学校が大きく荒れた時代に比べ、今は大変落ち着いていると思う。学校としてよく頑張っていると感じる。 ・家庭での問題も多く、学校だけでは解決をすることは難しい。家庭と連携を図りながら取り組む必要がある。	・生徒指導、教育相談の校内体制を整備し、家庭や関係機関と連携を図りながら組織的に推進していく。 ・『皇中環境宣言』の推進や主体的、自立的な生徒会活動の充実を図り、中学校生活に適した服装を着用するよう指導に努めていく。
				17	家庭、学校における基本的な生活習慣の構築(早寝・早起き・朝ごはんと遅刻ゼロ)	B					
				18	皇中環境宣言や服装規定の継続的な見直しと主体的・自立的な生徒会活動の充実	B					
		7	**読書活動**	19	週1回以上の全校読書活動	B	C	・毎週金曜日、朝の読書の時間を設定し読書活動の充実に努めた。 ・読書環境に必要な備品の整備、充実に努めるとともに各教科指導においても音読や暗唱などの取り組みを継続して進めていく必要がある。	B	・全校一斉読書活動を週1回取り組んでいるので現状で十分である。いろいろなことに一度に取り組むのは無理な面がある。 ・読書活動だけでなく様々な読書感想文などのコンクールに取り組み表彰されていることは素晴らしい。	・毎週金曜日の朝読書や校内読書週間などを設定し、読書活動の充実に努めていく。 ・読書環境に必要な備品の整備、充実に努めていく。
				20	読書環境の整備や地域人材等の活用	C					
				21	音読、群読、暗唱等発表の場の設定	C					

大項目		中項目		小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
						小項目評価	中項目評価	現況	中項目評価	意見、提言等	
(2)	地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	8	安全安心な学校	22	学校公開･ホームページ･学校通信による情報提供	A	A	･学校公開、学校ホームページや学校通信等により積極的に情報を提供し、保護者や地域の学校教育への参画と理解を得られるように努めた。 ･危機管理意識の醸成と緊急時におけるメール配信システムの確立に努めた。 ･あいさつ運動や大型量販店への安全パトロールなど計画的に取り組めた。 ･観葉植物の設置など教室、廊下等校舎内外の学習環境づくりに積極的に取り組んだ。 ･校舎等の老朽化に伴う施設、備品の整備や充実が課題である。	A	･学校の環境整備面については、整備充実を図るため地域からも要望を出していく。 ･学校から発信されている情報は通信等でよくわかる。 ･各学年の廊下やトイレなど清掃や整備がよくなされている。	･日々の生活全般を通し、教職員の危機管理意識の高揚を図っていく。 ･「報告･連絡･相談」体制の徹底と課題に対して迅速･適確に誠意を持って対応していく。 ･学校、保護者、関係機関が連携し、あいさつ運動や安全パトロールに取り組んでいく。 ･保護者との対応など電話で済ますのではなく、直接保護者と出会う場を多く持つように努めていく。
				23	危機管理マニュアル･個人情報取扱い規則の周知徹底とメール配信システム等の充実	A					
				24	学校･保護者･地域関係者によるあいさつ運動や安全パトロールの実施	A					
				25	落ち着きのある学習環境の構築と施設･設備の充実、安全点検の実施	B					
		9	学校協力者会議	26	情報提供と授業参観の実施	B	A	･定期的に学校協力者会議を開催し、授業参観や情報交換を行い学校教育への参画と理解を得るよう努めた。	A	･同じような地域の会議に出席している。地域の方の意見を聞いてみると皇中は様々な部分で地域と連携して取り組めている。皇中は地域のかかわりも大きいのでよいと思う。	･定期的な学校協力者会議の開催に努める。 ･学校情報を発信し、学校教育への参画と理解を得るように努めていく。 ･引き続き開かれた学校づくりに努めていく。
				27	学校運営支援･安全緊急対策等協力体制の充実	A					
		10	**学校評価**	28	自己評価結果の公表	A	A	･学校評価書の評価項目の検討、見直しを行った。 ･学校関係者評価委員会を開催し、学校の自己評価に基づく学校評価を実施し結果の報告と公表に努めた。	A	･学校評価については、よく取り組めている。	･校内評価委員会および学校関係者評価委員会を開催し、学校評価の実施に努め、次年度の学校運営に生かしていく。 ･学校生活に関わる生徒、保護者アンケートを継続し、その結果を自己評価に生かす取り組みを進めていく。
				29	学校関係者評価の実施	A					
				30	学校関係者評価結果の公表	A					
		11	**小中連携活動**	31	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	･生徒会を中心に新入生の入学説明会等の交流会を実施した。 ･校区内の4小学校で出前授業を実施した。 ･道徳の校内研修会に各小学校へ参加の呼びかけを行い小中の合同の研修会を実施した。 ･小中相互の授業参観など積極的な小中連携や交流が必要である。	B	･小中交流を行うための十分な時間を確保するのは難しい。学校が忙しすぎると感じる。 ･幼-小-中などギャップを少なくするために各校種間で連携をし11年間の教育をスムーズに行うことは大切である。しかし、校種が代わる毎に面倒を見る立場から面倒を見られる立場に代わる面が大きく、しっかり考え取り組んでいく必要がある。	･生徒会を中心に小中交流に努めていく。 ･出前授業をはじめ小中連携、積極的な授業公開に努めていく。 ･小中が一体となった研修会の開催に努めていく。 ･生徒指導協同推進を核とした小中連携の組織の確立を図っていく。
				32	校種間合同研修会	C					
				33	校種間の授業公開	B					
		12	**子育て支援**	34	保護者の子育てに対する積極的な支援	C	C	･保護者支援員、スクールカウンセラーと連携して保護者との個別の相談活動に取り組むように努めた。 ･PTAと協力し地区別懇談会において子育てについての相談活動を実施した。 ･学級懇談会等のあり方や実施について工夫、改善していく必要がある。	C	･保護者支援員、スクールカウンセラーなどの案内は通信等でも情報を発信してもらっている。親の方で、活用を積極的にしていくことが必要である。 ･学級懇談会など設定をしてもらっているが、参加しない方が多い。親の姿勢の問題ではないか。 ･親が子どもにうまく接することが出来ないので困っておられる家庭も増え、学校のかかわり方も難しくなってきている。地域が、子どもに出来る限りかかわりを持つことが大切である。	･計画的に懇談会を実施し、保護者同士が交流を図れる場の設定に努めていく。 ･保護者支援員、スクールカウンセラーと連携し、保護者との個別の相談活動が充実できるように努めていく。
				35	保護者の悩みを聞く個別相談の実施	B					
				36	保護者同士の交流や学習の場を意図した参観、懇談会の実施	C					
(3)	教職員の意識改革と専門性の発揮	13	研　修	37	研修テーマに基づく校内研究体制の確立と授業実践に基づく指導力の向上	A	B	･校内研修を実施していくための組織の確立、充実に努めた。 ･校内研修に全職員が積極的にかかわり、各学年において研究授業、公開授業を実施することができた。 ･校外の研修会に参加するための時間を確保するための工夫が必要である。	B	･校内研修の充実に今後も継続して取り組んでもらいたい。	･定期的に研究授業や公開授業の実施に努めていく。 ･校内研修を推進していくため、組織の充実に努めていく。
				38	確かな力量、総合的な人間力向上のための積極的な研修への参加	B					
		14	新しい人事評価	39	目標マネージメントによる自己目標の設定と評価の実施	B	B	･目標マネジメントによる自己目標の設定と目標達成への取り組みと自己評価に努めた。	B	人事評価は、民間ではすでに実施されているが、学校ではそぐわない面もある。	･学校の教育方針、教育推進の基本を明確に提示し、それらに基づく自己目標を設定し、資質、能力、組織力の向上に努めていく。
(4)	県共通	15	学校満足度	40	生徒の学校満足度	B	B	･学校アンケートでは9割の生徒が「学校生活が楽しい」と回答している。今後、より安全安心な学校づくりに努めていく必要がある。	B	子どもを大切にしすぎている面も見られる。少子高齢化という社会の情勢もかかわっている。学校への期待も大きく先生の負担も大きくなってきている。子どもとうまくかかわれない保護者もおり、地域からのかかわりが今後課題となる。	･生徒、保護者が安全安心して生活できる学校づくりを目指し、生徒一人ひとりの進路保障や学校環境整備に努めていく。

評定(達成度) の目安

達成度	指　　標
A	満足できる
B	どちらかというと満足できる
C	どちらかといえば課題がある
D	課題がある